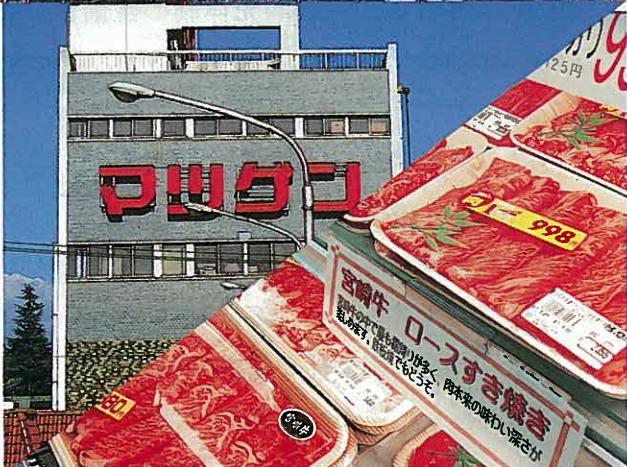
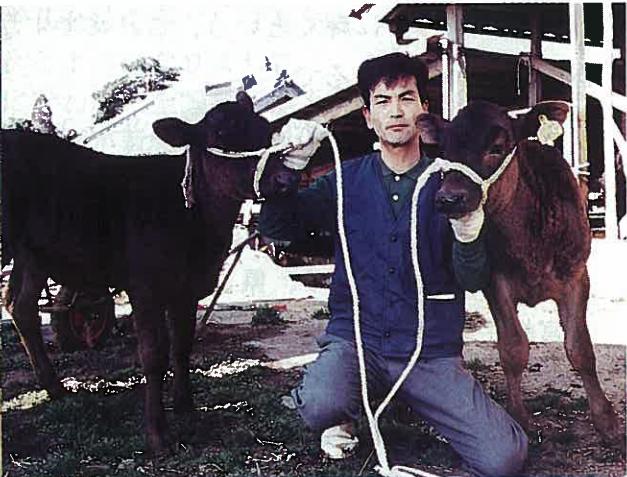


# 世界へ翔く宮崎牛

1998年2月号

No. 21



(左上) 高鍋町にある宮崎県農業科学公園  
(本年10月、宮崎県共進会50周年記念大会が開催される)

(左下) 県推進協議会より第7回全共岩手会場出品者に贈呈された表彰盾 (6p)

(右上) 農林水産大臣賞を受賞した笹森さん (5p)  
(右下) 和歌山県下で大きく展開しているチェーンストア  
「マツゲン」にて宮崎牛フェア開催! (4p)

## 2月号 目 次

- 宮崎牛のさらなる飛躍に向けて (県畜産課) ..... 2
- 最近子牛の基金登録頭数が増えつつあります (子牛基金協会) ..... 3
- 配合飼料価格安定基金の補てん額が決定 (経済連) ..... 3
- 宮崎銘柄牛共進会 (大阪の部) の結果 (経済連) ..... 4
- 和歌山県で宮崎牛フェアを開催 (経済連) ..... 4
- 宮崎県が2年連続! 農林水産大臣賞を受賞～国富町笹森義幸さん～ (畜産会) ..... 5
- 第7回全国和牛能力共進会報告会 (家畜登録協会) ..... 6
- 肉用牛産肉能力検定情報 (家畜改良事業団) ..... 7
- 牛も人も安全・楽チン! ~小林地域家畜市場の牛誘導レール~ (子牛基金協会) ..... 8

## 「宮崎牛」のさらなる飛躍に向けて

本県の肉用牛生産は、温暖で豊かな自然環境を背景に、農業の基幹的部門として着実な進展を遂げ、日本有数の主産県としての地位を確立してまいりました。

こうした中で、先に開催された第7回全国和牛能力共進会では、本県から出品された25頭の全頭が優等賞に輝くという、これまでにない最高の成績を収め、宮崎牛の真価と名声が全国に示されたところです。

また、本県の肉用子牛の価格は平成9年の平均で41万5千円と全国でもトップクラスとなっており、品質の高さが評価されている証といえましょう。

これも、生産者をはじめ関係団体・機関の皆様方の「宮崎牛」生産にかけるこれまでの努力と熱意の成果であり、県といたしましても

「宮崎牛」のさらなる飛躍に向けて、消費者ニーズに対応した肉用牛の効率的な生産と安定的な供給体制を確立するとともに、肉用牛農家の経営安定、流通販売体制の整備、PR活動の積極的な展開を図ってまいりたいと考えております。

特に、9年度からは、優秀な肉用牛の県内保留や農家の規模拡大を図るための繁殖・肥育素牛の導入に対して助成を行う「優秀肉用牛増頭対策事業」また、高齢飼養者の労働支援及び中核的農家の休日確保を推進するための肉用牛ヘルパーの組織育成や活動支援を行う「ゆとりある地域肉用牛生産基盤づくり事業」を実施しているところです。

さらに、今後は、省力的な低コスト牛舎の整備を進めていくとともに、子牛出荷、肥育開始月齢の早期化による生産コストの低減についても調査・検討していく必要があるのではないかと考えております。

今年の干支は寅となりましたが、昨年に引き続き「宮崎牛」の年となりますよう、今後とも皆様のご理解とご協力をいただきながら、「宮崎牛」の一層の銘柄確立に努めてまいりたいと存じます。

宮崎県農政水産部  
畜産課長 甲斐勝利



## ※最近子牛の基金登録頭数が増えつつあります！※

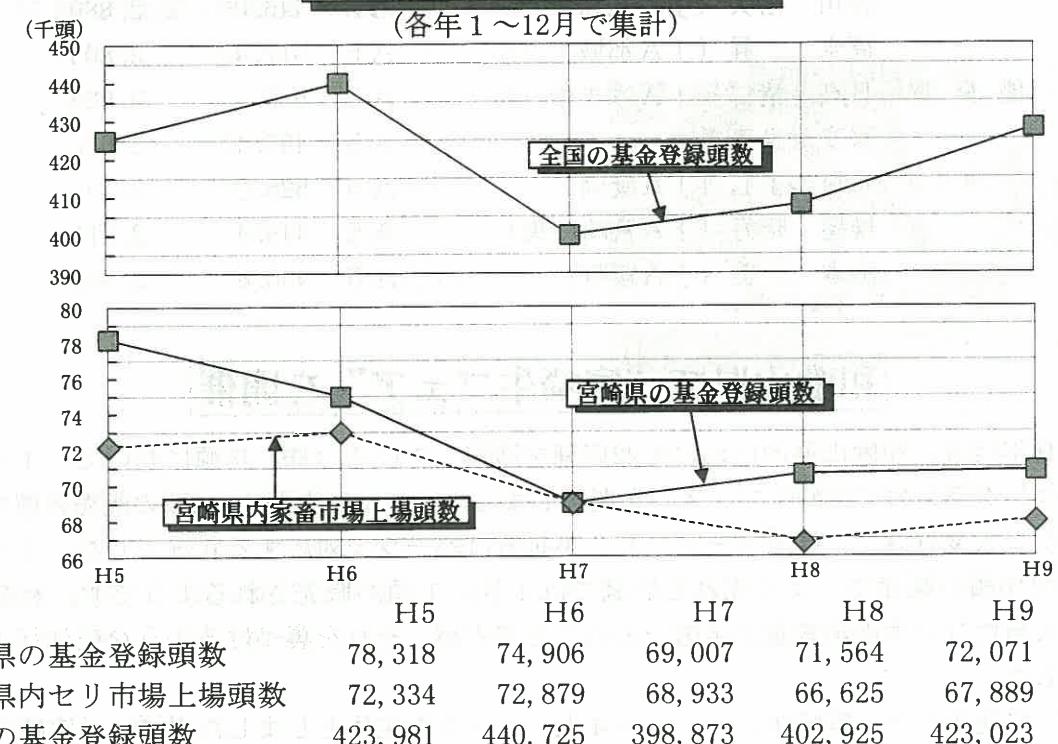
宮崎県肉用子牛価格安定基金協会では、毎年の生産者補給金制度に申し込まれる子牛頭数を取りまとめていますが、近年減少傾向にあった子牛頭数が、平成8年、平成9年と増加傾向にあることが明らかになりました。

また、全国的にも、基金登録頭数は増加傾向（対前年比5%増の予想）にあり、特に東北、南九州で顕著となっています。

一方、県内家畜市場への子牛の上場頭数（子牛基金協会調べ）を見ると、平成8年までは減少傾向でしたが、平成9年に増加傾向が見られるようになりました。

畜産を取り巻く状況が厳しいなか、平成9年に行われた全国和牛能力共進会での本県の素晴らしい成績など、本県和牛生産にとって明るい話題が数多く生まれています。更なる子牛価格安定と、生産農家経営安定のため、増頭推進を図ることが重要となってきています。

### 黒毛和種子牛頭数の推移



注) 基金登録頭数：平成9年は確定見込み値。

平成7年のは、制度の月齢要件(4月齢→6月齢)にともない修正。

### 配合飼料価格安定基金の補てん額が決定

系統配合飼料価格安定基金の平成9年度第4・四半期（平成10年1月～3月）の補てん金額が以下のとおり決定しました。

- ① 平成10年1月～3月に購入した配合飼料に対し、1トン当たり2,400円  
(系統配合飼料を使用している、安定基金契約者が補てんの対象となります。)
- ② 平成10年度の安定基金契約は、現在、JAで進められていますが、本年度の基金積立額は配合飼料契約数量に対し、1トン当たり500円

## 宮崎銘柄牛共進会（大阪の部）の結果

宮崎銘柄牛共進会は年4回の開催で、12月は恒例として大阪で開催され、今回で7回目となります。第7回共進会は、12月8日大阪、南港市場において各JAから、80頭の出品牛を集めて盛大に開催されました。

結果は、枝肉成績の5等級37.5%、4等級46.3%で、セリにおける枝肉販売単価は総平均で1kg 2,139円（5等級平均2,477円、4等級平均1,899円）と好調でした。団体賞、各個人賞は以下のとおりです。

団体賞 JA綾町

個人賞 最優秀賞 キャトルステーション（JA綾町） A5 502.3kg 4,201円/kg

優秀賞 平川 洋志（JA都城） A5 500.4 3,654

吉川 信夫（JA尾鈴） A5 446.0 2,880

福永 昇（JA都城） A5 517.4 2,805

優良賞 日高 清仁（JAはまゆう） A5 535.4 2,625

家畜改良事業団 A5 497.4 2,550

木村つよし（JA延岡） A5 525.2 2,451

椎屋 晴好（JA宮崎中央） A5 449.4 2,611

渕本 一美（JA綾町） A5 466.8 2,806

## 和歌山県で“宮崎牛フェア”を開催

平成9年12月、和歌山県内において22店舗を展開している（株）松源において、1ヶ月間というロングランの“宮崎牛フェア”を開催しました。フェア期間中200頭の販売目標を立てましたが、大変好評で目標をオーバーし、不足分はパートで対応する状況でした。1ヶ月間に、平均10頭の販売で、よく売れる店舗では1日、1頭が販売されるようです。和歌山県は、1人当たりの牛肉消費量が全国一とのことですが、それを裏づけるような売れ行きだと感じました。

フェアで使用した「宮崎牛」は、A-4上～A-5を主体としましたので、「宮崎牛」のうまさが、和歌山県の消費者に認められ、定着しつつあるものと思います。スーパー「松源」では、今後、大阪東部、北部に進出し、40店舗に拡大する計画です。江川社長は、「全面的に宮崎牛を取扱うので、良い牛をもとたくさんつくって下さい」と話しています。

「松源」は、関西においての重要な宮崎牛の販売拠点となります。今後、産地側も協力して販売促進に取組む必要があると考えています。

《株松源の概要》 資本金：9,900万円 年商：240億円 店舗数：24店 従業員：750人

宮崎牛の取扱いは6年前から始まる。現在、月間100頭をこす宮崎牛を購入。

「宮崎牛」を店の“顔”として、前面に掲げて売り出している。仕入担当者は、くみあい食肉の工場で、実際に枝肉を見ながら買い付けをしている。

## 宮崎県が2年連続！農林水産大臣賞を受賞

～国富町 笹森義幸さん～

全国肉用牛経営発表会（全国肉用牛協会主催）が1月14日に東京で開催され、経営技術部門で発表した国富町 笹森義幸さん（36）が農林水産大臣賞を受賞しました。

各地方ブロックで経営技術・組織活動部門あわせて21事例の発表があり、優秀な8事例が全国大会で発表されました。本県にとって、農林水産大臣賞の受賞は昨年の組織活動部門でのJA綾町（キャトルステーション）に続いて2年連続受賞の快挙となります。

今回は、最近注目されている受精卵移植も活用した優良自家産母牛群の整備や生産コスト低減にも積極的に取り組んでいる笹森さんの肉用牛一貫経営を紹介します。

### 1. 経営の概要(平成8年次)

飼養頭数……繁殖牛41頭、育成牛11頭、

(期末) 子牛31頭

肥育牛33頭（去勢若齢19、

雌若齢13、老廃1）

土地面積……水田130a、畑370a

（飼料生産延面積680a）

労働力関係……従事者数4名

（繁殖部門）

子牛販売頭数……23頭（雌5頭、雄18頭） 販売価格……雌448千円、雄545千円

出荷体重……雌283kg、雄304kg

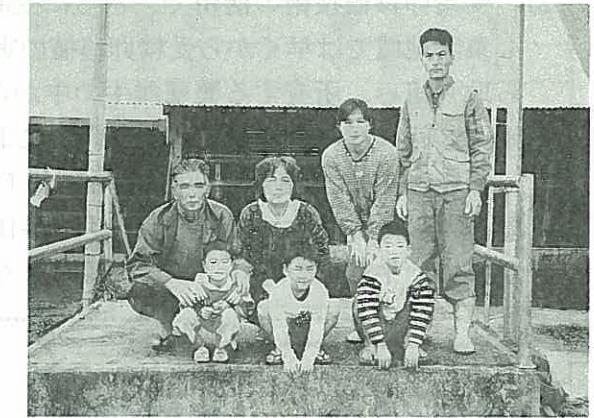
出荷日齢……雌310日、雄290日

（肥育部門）

出荷頭数……57頭（去勢若齢4頭、雌若齢28頭、老廃25頭）

肥育期間……雌若齢21.1ヶ月、老廃6.3ヶ月

日増体重……雌若齢0.52kg、老廃0.54kg



### 2. 経営の特徴

- 1) 飼養管理面について
  - 繁殖部門では徹底した個体観察により、1年1産の目標を達成しています。
  - 分娩後は、7～10日頃の発情徵候を見逃さないよう家族全員で心がけています。粘液状態から母牛の回復状況が判断できるので必要な場合には治療を行い、30日前後の次回発情の確実な発見に努めています。

繁殖牛は自家産が中心となっており、成雌牛41頭のうち自家産は31頭となっています。価格が高い時期には子牛で販売して、肥育素牛は外部導入、さらに、規模拡大のための資金確保の老廃牛の肥育を行うなど、

表-1 繁殖成績及び子牛出荷成績

区分	6年	7年	8年
平均産次	4.0	4.2	4.8
平均分娩間隔(カ月)	11.4	11.7	11.9
平均種付回数	1.3	1.2	1.3
子牛生産率(経産牛当たり)	104.3	102.6	100.0
子牛事故頭数	0	1	0

相場に応じて弾力性のある一貫経営を実践し、高い収益をあげています。

2) 未利用資源と自給粗飼料の確保による生産コストの低減。

繁殖牛については、自給飼料の生産状況に合わせて飼料の給与設計を行い、未利用資源である大根葉や野草を取り入れた給与体系を作り上げています。その結果、繁殖部門では53%という高い自給率を達成しています。

### 3. 今後の方針

1) 共同畜舎の建設で飼養管理の省力化を図る。

平成9年度にJAの和牛青年部会の仲間3人とフリーバーン方式の共同畜舎(70頭収容1棟、50頭収容2棟、畜産再編総合対策事業)を建設中で、大幅な労力節減を目指しています。

2) 受精卵移植技術の活用で、さらに生産性向上を図る。

東諸地域では早くから受精卵移植の実践活動が進んでいますが、笹森さんも試験段階から取り組み、所有する繁殖雌牛の中から優秀ドナーを選び、平成8年度末までに4頭から延べ8回の採卵と21頭の移植を行っており、今後も大幅に拡大する予定です。

笹森さんは、低価格、高産乳性というF1の特性に注目して、すでに受卵牛としてF1を10頭導入しています。将来は、ドナー牛10頭、繁殖雌牛30頭、受卵牛30頭、肥育牛100頭の規模で、牛群のレベルアップを図り、生産性の高い肉用牛一貫経営を目指しています。

## 第7回 全共報告会

平成9年9月11~15日まで岩手県で開催された第7回全国和牛能力共進会では、出品牛全頭が優等賞に入賞するという大変素晴らしい成績を収めることができ、「宮崎牛」の真価と名聲を全国に博すことが出来ました。これも出品者をはじめ、各関係者の熱意とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

さる1月10日、宮崎市内の「ひまわり荘」において出品者及び関係者多数のご出席をいただき、本共進会の報告会が開催されました。報告会では、改めて本県和牛の優秀さと素晴らしいが再認識されますとともに、来る平成14年に岐阜県高山市で開催予定の第8回全共に向か、さらに一致団結して取り組むことも決議されました。第8回全共も今回以上の成果が得られますよう今後とも皆様方のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



挨拶をされる福原先生（宮崎大学農学部教授）  
—福原先生は第7回全共の審査委員—



多くの参加があつた報告会

### 肉用牛産肉能力検定情報

## 高能力種雄牛が相次いで誕生

「茂福号」「菊平福号」「綾隆号」

### 間接検定成績

項目／種雄牛名	茂 福	菊 平 福	綾 隆
父	安 平	菊 安	隆 美
母	ふくみ	きよふく	さち
母の父	福 茂	安 福	菊 安
生産地	高 原 町	佐 土 原 町	綾 町
生産者	岩 崎 末 治	永 野 正 純	中 園 實 千 子
終了時体重(kg)	583.6	614.2	600.3
1日当たり増体量(kg)	0.86	0.95	0.90
枝肉重量(kg)	349	373	367
ロース芯面積(cm <sup>2</sup> )	45	49	51
バラの厚さ(cm)	6.6	6.6	6.5
皮下脂肪厚(cm)	2.4	1.9	2.2
推定歩留(%)	73.2	73.8	73.8
脂肪交雑(BMS)	3.0	3.1	3.4

平成9年度に行われた間接検定で、3頭の県有種雄牛が全国でもトップクラスの好成績を収めました。

「茂福号」は高原町の岩崎末治さんの生産によるものです。父は名牛として評価の高い「安平号」で母は「福茂号」の娘牛「ふくみ号」であり、産肉性と種牛性を併せ持つ血統構成です。検定産子は、揃って発育が良好であり、特に肉質面では脂肪交雑がBMS3.0と優れました。本牛は「安平号」の優れた能力をよく受け継いでいると思われ、今後が期待されます。

「菊平福号」は佐土原町の永野正純さんによって生産されました。本牛は「安平号」「福桜号」の弟牛として注目されてきましたが、期待通りの高能力が実証されました。検定産子は揃って発育資質とも大変良好でした。枝肉については、肉量は十分であり、肉質面でも脂肪交雑がBMS3.1と全国のトップレベルに達しております。さらに、サシの状態が小ザシで、モモヌケが良い点が特筆されます。

「綾隆号」は綾町の中園寛千子さんが生産されました。父は「隆美号」母は「菊安号」の娘牛「さち号」です。この母牛は東諸県郡内でトップクラスの育種価値であることから、関係者が種雄牛造成に取り組まれたものです。検定では発育、枝肉量、肉質とも申し分なく、特に脂肪交雑はBMS3.4と本県歴代2位のすばらしい成績を収めました。

今回、間接検定で、高能力が証明された3頭の種雄牛は、これから県内で本格的な供用が予定され、次代を担う有望な種雄牛として活躍が期待されます。



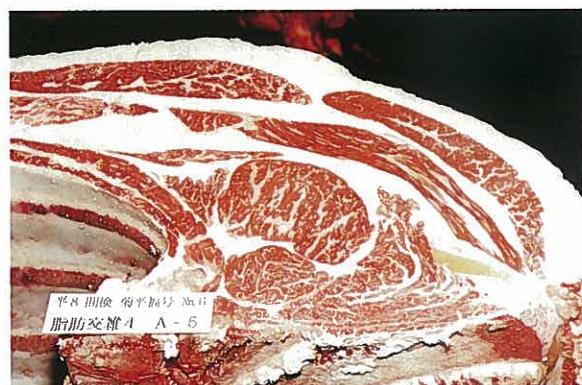
種雄牛「茂福号」



茂福号の枝肉断面



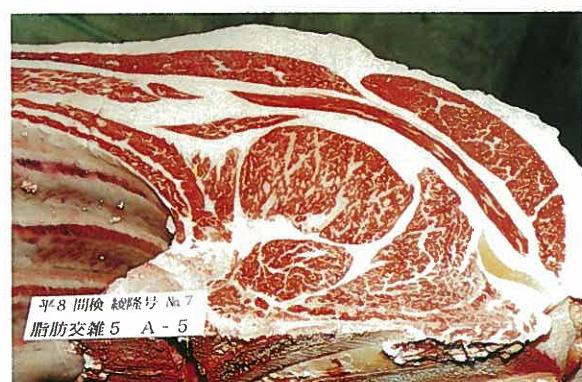
種雄牛「菊平福号」



菊平福号の枝肉断面



種雄牛「綾隆号」



綾隆号の枝肉断面



## 牛も人も安全・楽チン！

～小林地域家畜市場に誘導レールが登場～

係留所から競り場までの総延長600mについて、牛専用の誘導レールが設置されました。

「牛の移動が楽になった」と生産者に大好評です。

発行所  
0985-242674  
宮崎県畜産会